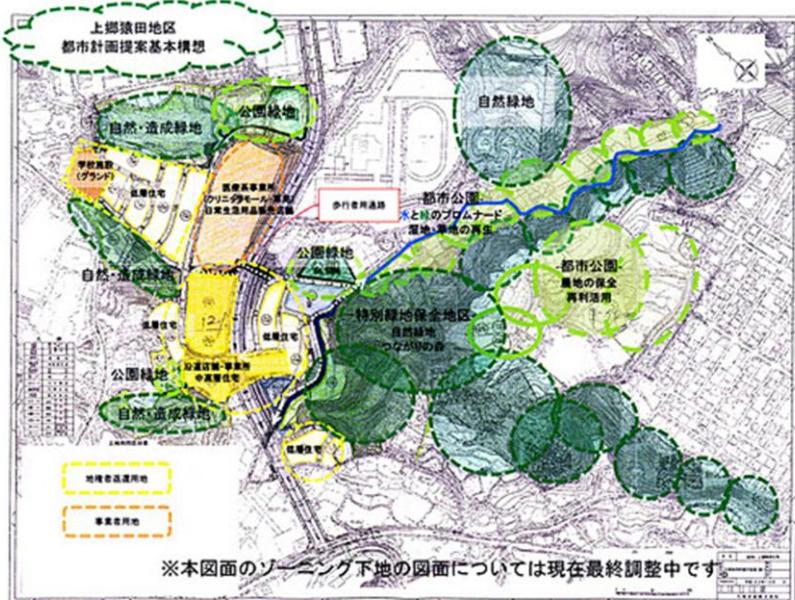


# 再・開発計画構想が明らかになりました！

12月1日、東急建設殿より当基金に対し、開発の説明が行われました。

詳細は明らかにされませんでしたが、「上郷猿田地区都市計画提案基本構想」という名称で、開発の概略が示されました。



## < 開発の概要 >

東側は、横堰下流のいたち川が山側に付け替えられ、川から舞上線沿いまでは、店舗、事業所、低層住宅、中高層住宅が計画されています。西側は、舞上線沿いに、日用品店舗、医療系事業所、中高層住宅が計画され、山手学院寄りは低層住宅用地となっています。

切り土と盛り土の面積は約 107,000 m<sup>2</sup>、住宅戸数約 350 戸、計画人口 1,000 人以下、猿田谷戸と深田谷戸及び古代製鉄遺跡は完全に失われる計画となっています。今後のスケジュールは、24/1 月事前相談書提出、24/3 月助言書受領、24/6 月都市計画提案書提出となっています。

## < ホタルのふるさと瀬上沢基金から、概略以下の見解と要望を述べました >

- 1 舞上線道路西の森／谷戸の大部分が造成され、湿地も緑も失われ乾燥化する。
- 2 古代製鉄跡、江戸道、深田谷戸、猿田谷戸などが根こそぎ失われる。横堰、貝化石などと一体で残さなければならない史跡と谷戸である。
- 3 連続する三浦丘陵の北端を削り破壊するのは、まとまりの緑を縮小させる。
- 4 人口減少の今、瀬上沢の緑を削ってまで新たな街をつくる必然性は無い。自然を破壊すれば元には戻らない。
- 5 生物多様性保全や横浜市の政策に逆行する都市計画提案は間違っている。
- 6 市有地との等価交換により、市街化区域の代替地での開発検討を提案する。
- 7 横浜市の買取り要請がある場合は受入れて欲しい。
- 8 事業者の東急建設は、“地権者への義務履行”を強調するが、地権者の緑地保全意識も高いはず。基金は地権者と膝を交えて話す用意がある。
- 9 貴重な緑を削ってまでの新たな街づくり提案は断固受け入れられない、全面保全を求める。